(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4256193号
(P4256193)

(45)発行日　平成21年4月22日(2009.4.22)　(24)登録日　平成21年2月6日(2009.2.6)

(51)Int.Cl.		F I		
A61F 13/496	(2006.01)	A41B	13/02	V
A61F 5/44	(2006.01)	A61F	5/44	H
A61F 13/49	(2006.01)	A41B	13/02	H
A61F 13/56	(2006.01)			

請求項の数 6　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願2003-94918(P2003-94918)
(22)出願日　平成15年3月31日(2003.3.31)
(65)公開番号　特開2004-298401(P2004-298401A)
(43)公開日　平成16年10月28日(2004.10.28)
審査請求日　平成18年3月1日(2006.3.1)

(73)特許権者　390029148
大王製紙株式会社
愛媛県四国中央市三島紙屋町２番６０号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(74)代理人　100093045
弁理士　荒船　良男
(72)発明者　家守　啓
栃木県塩谷郡喜連川町鷲宿字菅ノ沢４７７６番４号　エリエールペーパーテック株式会社内

審査官　山口　直

最終頁に続く

(54)【発明の名称】吸収性物品

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
本体と、前記本体の腹側部の両側及び背側部の両側に延出して各々設けられ、前記本体の幅方向に伸縮自在な材料により構成された一対のサイドパネルと、を備え、前記本体の同一幅方向における前記腹側部と前記背側部のサイドパネルの側端部同士を固着してなる吸収性物品において、
前記本体と前記サイドパネルとの固着部のうちの少なくとも一個所の固着部は、前記本体の幅方向に外側固着部位と内側固着部位の少なくも二つの固着部位を備え、
前記外側固着部位は、取り外し可能とされ、
前記内側固着部位と前記外側固着部位との間のサイドパネルは、折り返されていないことを特徴とする吸収性物品。
【請求項２】
前記固着部に設けられる前記固着部位が三箇所以上であり、
前記固着部位の固着強度は、前記本体の幅方向外側のものほど弱くなっていることを特徴とする請求項１記載の吸収性物品。
【請求項３】
前記本体は、人体との接触面側に設けられるトップシートと、バックシートと、前記トップシートと前記バックシートとの間に腹側部から股下部を通って背側部にかけて介装される吸収体とを含んで構成され、
前記バックシートの幅方向両端部に、前記腹側部から前記股下部を通って前記背側部にか

けて弾性部材が配設されていることを特徴とする請求項１又は２に記載の吸収性物品。
【請求項４】
前記吸収体の両側部のそれぞれに沿って、腹側部から股下部を通って背側部に亘り設けられるギャザーシートを備え、
前記ギャザーシートの幅方向端部の位置が、前記バックシートの幅方向端部と同じかそれよりも内側であることを特徴とする請求項３記載の吸収性物品。
【請求項５】
前記弾性部材は、前記バックシートの幅方向両端部が折り返された折り返し部に、当該折り返し部のバックシートに挟まれた状態で配設されていることを特徴とする請求項３又は４に記載の吸収性物品。
【請求項６】
前記吸収体の側縁部と前記弾性部材との間に、前記腹側部から前記股下部を通って前記背側部にかけて第２の弾性部材が設けられていることを特徴とする請求項３～５の何れか一項に記載の吸収性物品。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
この発明は、使い捨て紙おむつ等に代表される吸収性物品に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来、吸収性物品である使い捨て紙おむつ（以下、紙おむつという。）１００は、例えば、図５～７に示すように、不織布からなり使用面側を覆う透液性トップシート１０１と、不織布からなり紙おむつの外面を覆うバックシート１０２と、透液性トップシート１０１とバックシート１０２との間に介在される吸収体１０３とを含む紙おむつ本体１１０を備える。
【０００３】
紙おむつ本体１１０は、着用時に着用者の腹側に位置する腹側部１２０と、背中側に位置する背側部１３０と、腹側部１２０と背側部１３０との間の股下部１４０とに区分されており、腹側部１２０及び背側部１３０の幅方向両端部１２０ａ、１３０ａに伸縮性のサイドパネル１５０が接合固定されている。そして、同一幅方向における腹側部１２０及び背側部１３０のサイドパネル１５０の側端部１５０ａ、１５０ａ（側端部１５０ｂ、１５０ｂ）同士が接合固定されることにより、パンツ型の紙おむつ１００に組み立てられるようになっている（例えば、特許文献１）。
このような紙おむつ１００においては、サイドパネル１５０の伸縮性を利用して、着用者の胴周りサイズに適合するようにしている。
【０００４】
また、紙おむつ本体１０の両側部に表面側に起立する立体ギャザーＢ１を形成するギャザーシート１０４が設けられている。そして、吸収体よりも側方に延出するバックシート１０２とギャザーシート１０４とに挟まれた状態で、腹側部１２０から股下部１４０を通って背側部１３０にかけて糸状弾性伸縮部材１６０が３本並列して設けられ、この糸状弾性伸縮部材１６０により脚周りギャザーＣ１が形成されている。
【０００５】
【特許文献１】
特開２０００－２７９４４８号公報
【０００６】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、特許文献１に記載した紙おむつ１００の場合、着用可能な胴周りサイズは、サイドパネル１５０の伸縮率により決まってしまうため、使い勝手が悪いという問題があった。
即ち、通常、この種の紙おむつ１００は同一サイズのものを複数個まとめて梱包したもの

を販売する形態を採っているため、例えば、着用者が複数いる施設等で使用する場合、着用者に合った胴周りサイズの紙おむつ１００を複数種類購入しなければならず、煩雑であるという問題があった。

【０００７】

また、上記従来の脚周りギャザーＣ１周辺構造の場合、糸状弾性伸縮部材１６０が設けられている部分よりも幅方向外側のサイドフラップ部分（以下、外側フラップ部という。）１７０の形状は、糸状弾性伸縮部材１６０の伸縮により波打った形状となっているため、おむつである印象が否めないという外観上の問題があった。

また、外側フラップ部１７０自体は、漏れ防止の役割はほとんどなく、無駄な部分であるという問題もあった。

【０００８】

さらに、特に、パンツ型の紙おむつの場合、外側フラップ部１７０が引っかかって足を入れにくく履きにくいという問題があった。

【０００９】

そこで、本発明の課題は、着用可能な腰回りサイズの許容範囲がより広く、使い勝手のよい吸収性物品を提供することである。

【００１０】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、請求項１記載の発明は、図１～図４に示すように、

請求項１記載の発明は、本体（例えば、紙おむつ本体１０）と、前記本体の腹側部の両側及び背側部の両側に延出して各々設けられ、前記本体の幅方向に伸縮自在な材料により構成された一対のサイドパネル（２０）と、を備え、前記本体の同一幅方向における前記腹側部と前記背側部のサイドパネルの側端部（例えば、側端部２１ａ、２２ａ及び側端部２１ｂ、２２ｂ）同士を固着してなる吸収性物品（例えば、使い捨て紙おむつ１）において、

前記腹側部又は前記背側部と前記サイドパネルとの固着部（４０）のうちの少なくとも一箇所の固着部は、前記本体の幅方向に外側固着部位（４１）と内側固着部位（４２）の少なくとも二つの固着部位を備え、

前記外側固着部位は、取り外し可能とされ、

前記内側固着部位と前記外側固着部位との間のサイドパネルは、折り返されていないことを特徴とする。

【００１１】

請求項１記載の発明によれば、腹側部及び背側部とサイドパネルとの固着部のうちの少なくとも一個所に、幅方向に外側固着部位と内側固着部位の少なくとも二つの固着部位が備えられ、外側固着部位は、取り外し可能とされ、内側固着部位と外側固着部位との間のサイドパネルは、折り返されていないので、着用者の胴周りサイズに応じて外側固着部位を取り外すことによって、サイドパネルの実際の長さを変えずに、胴周りサイズの許容範囲を広くすることができることとなって、使い勝手のよいものとすることができる。

【００１２】

請求項２記載の発明は、請求項１記載の吸収性物品において、前記固着部に設けられる前記固着部位が三箇所以上であり、前記固着部位の固着強度は、前記本体の幅方向外側のものほど弱くなっていることを特徴とする。

【００１３】

請求項２記載の発明によれば、請求項１に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、固着部に設けられる固着部位が三箇所以上であり、固着部位の固着強度が幅方向外側のものほど弱くなっているので、固着部位を幅方向外側から内側に段階的に取り外すことが容易となる。

【００１４】

請求項３記載の発明は、請求項１又は２に記載の吸収性物品において、

前記本体は、人体との接触面側に設けられるトップシート（１１）と、バックシート（１

２）と、前記トップシートと前記バックシートとの間に腹側部（１５）から股下部（１７）を通って背側部（１６）にかけて介装される吸収体（１３）とを含んで構成され
前記バックシートの幅方向両端部（１２１）に、前記腹側部から前記股下部を通って前記背側部にかけて弾性部材（例えば、第１の糸状弾性部材３０）が配設されていることを特徴とする。

【００１５】

請求項３記載の発明によれば、請求項１又は２に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、バックシートの幅方向両端部に腹側部から股下部を通って背側部にかけて弾性部材が配設されているので、従来の吸収性物品のように、弾性部材よりも外側のフラップ部分が形成されない。従って、バックシートと弾性部材とで形成される脚周り部分や股間部分の端部がすっきりした形状になるので、下着のように見え、外観品質が向上する。

【００１６】

また、外側フラップ部が形成されないので、その部分の材料が少なくなることとなって、材料コストを削減できる。
加えて、脚周り部分に外側フラップが形成されないので、装着しやすいものとなる。

【００１７】

請求項４記載の発明は、請求項３記載の吸収性物品において、
前記吸収体の両側部のそれぞれに沿って、前記腹側部から前記股下部を通って前記背側部に亘り設けられるギャザーシート（１４）を備え、
前記ギャザーシートの幅方向端部（１４１）の位置が、前記バックシートの幅方向端部と同じかそれよりも内側であることを特徴とする。

【００１８】

請求項４記載の発明によれば、吸収体の両側部のそれぞれに沿って、腹側部から股下部を通って背側部に亘り設けられたギャザーシートの幅方向端部の位置が、バックシートの幅方向端部と同じかそれよりも内側なので、ギャザーシートが設けられるタイプの吸収性物品においても、請求項３記載の発明と同様の効果が得られる。

【００１９】

請求項５記載の発明は、請求項３又は４に記載の吸収性物品において、
前記弾性部材は、前記バックシートの幅方向両端部が折り返された折り返し部（１２ａ）に、当該折り返し部のバックシートに挟まれた状態で配設されていることを特徴とする。

【００２０】

請求項５記載の発明によれば、請求項３又は４に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、弾性部材は、バックシートの幅方向両端部が折り返された折り返し部に、当該折り返し部のバックシートに挟まれた状態で配設されているので、弾性部材を確実にバックシートの幅方向両端部に配設することができる。
また、例えば、パンツ型の吸収性物品においては、装着時に折り返し部を把持部として使用することができることとなって、履きやすいものとなる。

【００２１】

請求項６記載の発明は、請求項３～５の何れか一項に記載の吸収性物品において、
前記吸収体の側縁部と前記弾性部材との間に、前記腹側部から前記股下部を通って前記背側部にかけて第２の弾性部材（例えば、第２の糸状弾性部材３１）が設けられていることを特徴とする。

【００２２】

請求項６記載の発明によれば、請求項３～５の何れか一項に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、吸収体の側縁部と弾性部材との間に、第２の弾性部材が腹側部から股下部を通って背側部にかけて設けられているので、脚周り部からの漏れをさらに防止することができるとともに、脚周りのフィット性もさらに向上させることができる。

【００２３】

【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施の形態を、図面を参照しながら詳細に説明する。
本実施の形態では、吸収性物品として、特に、使い捨て紙おむつを一例として、以下に説明する。
【００２４】
図１は、本実施の形態における使い捨て紙おむつを、トップシートを上面にして展開した平面展開図である。また、図２は、図１のII－II部断面である。更に、図３は、使い捨て紙おむつの装着時の状態に組立てた斜視図である。
【００２５】
図１～図３に示すように、本実施の形態にかかる使い捨て紙おむつ（以下、紙おむつという。）１は、いわゆるパンツ型の紙おむつであって、紙おむつ本体１０と、この紙おむつ本体１０の背側両側端部１０ａ、１０ａと腹側両側端部１０ｂ、１０ｂから突出して設けられた幅方向に伸縮自在のサイドパネル２０とを備えている。
【００２６】
ここで、以下の説明において、長手方向とは、図１の紙面の上下方向をいい、幅方向とは図１の左右方向をいうものとする。また、内側とは、紙おむつ１の幅方向の中央側をいい、外側とは、紙おむつ１の幅方向の中央から離れる側をいうものとする。
【００２７】
紙おむつ本体１０は、人体との接触面側に設けられる透液性の不織布等からなるトップシート１１と、装着時に外部側に設けられる不透液性の不織布等からなるバックシート１２と、トップシート１１とバックシート１２との間に介装される吸収体１３と、トップシート１１側の吸収体１３の両側部に、紙おむつ本体１０の長手方向に沿って備えられる不織布等からなるギャザーシート１４、１４と、を備えている。
そして、紙おむつ１を装着した時、紙おむつ本体１０により、人体の股部を腹側から背側にかけて覆うように、一方の端部に腹側部１５が形成され、他方の端部に背側部１６が形成されているとともに、腹側部１５と背側部１６との間に股下部１７が形成されている。
股下部１７の両縁部は、装着された際に着用者の脚の周りを囲む脚周り部１８、１８となっている。
【００２８】
また、紙おむつ本体１０の腹側部１５の長手方向端部１５１と、背側部１６の長手方向端部１６１とは、紙おむつ１が人体に装着された際に、胴周りを形成するようになっている。
【００２９】
（トップシート１１、バックシート１２、ギャザーシート１３の材質）
紙おむつ本体１０を構成するトップシート１１やバックシート１２、ギャザーシート１４、１４等を形成する不織布の素材としてとしては、天然繊維、合成繊維のいずれを用いてもよい。天然繊維の例としては、綿、セルロース（木材パルプ）、羊毛、絹等が挙げられる。また合成繊維としては、ポリプロピレン（PP）、ポリエチレン（PE）、ナイロン、ポリエステル（PET）、アクリル等が挙げられ、またPE/PP混合不織布、PE/PET混合不織布、また、上記素材を適宜組み合わせたバイコンポーネント繊維（混合繊維）も用いることができる。
【００３０】
また、これらの繊維性素材から不織布を製造する方法としては、公知の方法を適宜用いることができ、例えば、ケミカルボンド、サーマルボンド、スパンレース等のいずれの方法を用いてもよく、また合成繊維等では、スパンボンド法、メルトブロー法、またこれらと上記の接着方法の組み合わせ等、いずれの方法を用いて製造してもよい。
【００３１】
なお、バックシート１２やギャザーシート１４は不透液性とするため、特に、疎水性または撥水性の高い素材で製造することが望ましく、また、その不織布には疎水性または撥水性を高くする加工が施されている。

【００３２】
また、より外部側へ水様成分が漏出しにくいように、吸収体１３とバックシート１２の間には、防水フィルム（図示省略）を設けてもよい。
【００３３】
（脚周りギャザーの構造）
バックシート１２の幅方向両端部には、腹側部１５から股下部１７を通って背側部１６にかけて弾性部材としての第１の糸状弾性部材が３０、３０、３０が３本並列して配設されている。
かかる第１の糸状弾性部材３０は、バックシート１２の幅方向両端部が折り返された折り返し部１２ａに、当該折り返し部１２ａのバックシート１２に挟まれた状態で、例えば、ホットメルトや、ヒートシール、超音波シール等により固着されている。
【００３４】
また、第１の糸状弾性部材３０よりも内側、即ち、吸収体１３側に、バックシート１２とギャザーシート１４との間に、第２の弾性部材としての第２の糸状弾性部材３１が、例えば、ホットメルトや、ヒートシール、超音波シール等により固着されて配設されている。
【００３５】
また、図２に示すように、トップシート１１の幅方向端部１１１の位置が、バックシート１２の幅方向端部１２１よりも内側となっており、また、ギャザーシート１４の幅方向端部１４１の位置も、バックシート１２の幅方向端部１２１よりも内側となっている。
そして、当該紙おむつ１着用時に、この第１の糸状弾性部材３０と第２の糸状弾性部材３１が配設された股下部１７の幅方向端部により脚周りギャザーＣが形成されるようになっている。
【００３６】
（吸収体の材質及び構造）
吸収体１３は、紙おむつ１の使用時に体液としての尿等の水様成分を吸収するものであり、綿やパルプ等の吸収性素材や、繊維或いはフィルム等のシート状基材と高吸水性樹脂とが組み合わされて形成された吸収体コア（図示省略）が、透液性のクレープ紙（図示省略）により覆われて構成されている。
【００３７】
（ギャザーシートの構造）
ギャザーシート１４，１４は、紙おむつ１におけるトップシート１１側において、紙おむつ本体１０の腹側端部１５１から背側端部１６１にわたり、股下部１７の両端に相当する位置に備えられている。
【００３８】
このギャザーシート１４，１４は、不透液性の不織布のシートを二つ折りにし、折り合わされた面を、例えば、ホットメルトや、ヒートシール、超音波シール等により固着させることにより形成されている。
この不織布シートを二つ折りにした折り返し部分側の端部を自由端部（図示省略）、紙おむつ本体側に固定される端部を固定端部（図示省略）とする。その固定端部（図示省略）が、トップシート１１と、バックシート１２との間に挟まれるように固着されることにより、ギャザーシート１４、１４が紙おむつ本体１０側に固定されている。そして、その不織布が折り合わされた面間に、１本又は数本の糸ゴム３３が挟み込まれて固着されて備えられている。
【００３９】
このギャザーシート１４、１４が紙おむつ１に固着されて備えられた状態において、自由端部（図示省略）が起立することにより、立体ギャザーＢが形成される。そして、この糸ゴム３３によりギャザーシート１４、１４は、着用者の体型に合わせて伸縮自在に変形し、着用者にフィットしやすい構造となっている。
【００４０】
（サイドパネルの構造）

サイドパネル２０は、例えば、ポリスチレン、ポリイソプレン又はポリブダジエンのブロック共重合体、エチレンの共重合体、天然ゴム、ウレタン及び、これらの混合／コエクストルージョン等の単一層の織布、不織弾性材料又は伸縮性材料により形成されたもの、又は伸縮性材料のフィルム、あるいは伸縮性材料の複合体などを用いることができる。

【００４１】

サイドパネル２０のうち、背側両端部１０ａ、１０ａから突出する背側サイドパネル２１、２１と、腹側両側端部１０ｂ、１０ｂから突出する腹側サイドパネル２２、２２とは、異なる色に配色され、腹側（前側）と背側（後側）の識別が容易にできるようになっている。

【００４２】

サイドパネル２０の基端部２０ａ側は、紙おむつ本体１０の腹側部１５と背側部１６のバックシート１２に、例えば、ホットメルトや、ヒートシール、超音波シールなどによって固着されている。

【００４３】

サイドパネル２０とバックシート１２との固着部４０には、幅方向に二箇所の固着部位４１、４２が長手方向に沿って設けられており、各固着部位４１、４２のうち、幅方向外側に位置する外側固着部位４１の固着強度は、幅方向内側に位置する内側固着部位４２の固着強度よりも弱くなっている。

【００４４】

ここで、外側固着部位４１の固着強度は、当該紙おむつ１を着用した場合に外側固着部位４１に通常作用する力によっては容易に固着が外れない程度の強度を有するとともに、着用者或いは着用補助者が手で引っ張ると固着が外れる程度の強度に設定されている。

【００４５】

また、背側サイドパネル２１及び腹側サイドパネル２２の側端部２１ａ、２２ａ同士及び側端部２１ｂ、２２ｂ同士が長手方向に沿ってホットメルトや、ヒートシール、超音波シールなどにより接合されることにより、図３に示すようなパンツ型の紙おむつ１に組み立てられる。

【００４６】

パンツ型に組み立てられた紙おむつ１は、紙おむつ本体１０の背側部１６、腹側部１５、及びサイドパネル２０により胴周り部５０が形成され、その上端に、胴周り開口部６０が形成される。また、紙おむつ本体１０の股下部１７の側端部により脚周り開口部７０が形成されている。

【００４７】

（平面ギャザーの構造）

また、腹側部１５及び背側部１６の長手方向の縁部１５２、１６２の中央部には、糸状或いは帯状のゴム３４が幅方向に沿って設けられ、この弾性部材により平面ギャザーＤが形成され、着用者の胴周りにフィットするように伸縮自在な構成となっている。

【００４８】

（紙おむつ１の着用動作）

上記のように構成された紙おむつ１を人体に装着する場合、まず、紙おむつ１の胴周り開口部６０を手で広げて、脚を胴周り開口部６０から脚周り開口部７０に通す。このとき、脚周りギャザーＣに、従来のような外側フラップが形成されないので、脚周り開口部７０に脚を通すことが容易である。

次いで、紙おむつ１００を腰部まで引き上げて、股下部１７を人体の股間に当て、腹側部１５及び背側部１６をそれぞれ人体の腹部及び背部に位置させた状態で手を離すことにより胴周り開口部６０が収縮して人体の胴周りにフィットして装着される。

【００４９】

また、外側固着部位４１が固着された状態で着用した場合に、着用者の胴周りサイズが大きくてきついと判断した場合には、着用者或いは着用補助者が手で引っ張ることで外側固着部位４１の固着が外れる。すると、サイドパネル２０の実際の長さは変わらずに、サ

イドパネル２０の胴周りサイズの許容範囲が広くなって、より胴周りにフィットするようになる。

【００５０】

以上説明した、本実施の形態による紙おむつ１によれば、サイドパネル２０とバックシート１２との固着部４０には、幅方向に二箇所の固着部位４１、４２が長手方向に沿って設けられ、各固着部位４１、４２のうち、幅方向外側に位置する外側固着部位４１の固着強度は、幅方向内側に位置する内側固着部位４２の固着強度よりも弱くなっているので、着用者の胴周りサイズに応じて外側固着部位４１を取り外すことによって、胴周りサイズの許容範囲を広くすることができることとなって、使い勝手のよいものとすることができる。

また、バックシート１２の幅方向両端部１２１に腹側部１５から股下部１７を通って背側部１６にかけて第１の糸状弾性部材３０が配設され、トップシート１１及びギャザーシート１４の幅方向端部１１１、１４１の位置が、バックシート１２の幅方向端部１２１が内側なので、従来の吸収性物品のように、第１の糸状弾性部材３０よりも外側フラップ部１７０（図７）が形成されない。従って、バックシート１２と第１の糸状弾性部材３０とで形成される脚周り部分や股間部分の端部がすっきりした形状になるので、下着のように見え、外観品質が向上する。

【００５１】

また、外側フラップ部１７０が形成されないので、その部分の材料が少なくなることとなって、材料コストを削減できる。

また、特に、第１の糸状弾性部材３０は、バックシート１２の幅方向両端部１２１が折り返された折り返し部１２ａに、当該折り返し部１２ａのバックシート１２に挟まれた状態で配設されているので、第１の糸状弾性部材３０を確実にバックシート１２の幅方向両端部１２１に配設することができる。

【００５２】

さらに、脚周りギャザーＣに第１の糸状弾性部材３０…に加えて、第２の糸状弾性部材３１が設けられているので、脚周り開口部１８からの漏れをさらに防止することができるとともに、脚周りのフィット性をさらに向上させることができる。

加えて、紙おむつ１を装着する際、脚周り開口部７０に脚を通しやすいので、従来のパンツ型の紙おむつに比べて履きやすい。

また、バックシート１２の幅方向両端部１２１の折り返し部１２ａが外側に出るので、この折り返し部１２ａを人体装着時に把持部として利用することができることとなって、履きやすさがさらに向上する。

【００５３】

尚、上記の実施の形態は、本発明を例示したに過ぎず、適宜変更可能である。

例えば、サイドパネル２０とバックシート１２との固着部４０に設けられる固着部位は、幅方向に二箇所に限らず、三箇所以上であってもよい。その場合、各固着部位の固着強度は、幅方向外側にいくにつれて段々弱くなるように構成する。こうすることにより、固着部位を段階的に外すことができて好適である。

また、段階的な固着部位は、腹側部１５とサイドパネル２０との固着部或いは背側部１６とサイドパネル２０との固着部にのみ設けても良い。また、腹側部１５とサイドパネル２０との二つの固着部のうちどちらか一方のみに設けてもよいし、背側部１６とサイドパネル２０との二つの固着部のうちどちらか一方のみに設けてもよい。

【００５４】

第１の糸状弾性部材３０は、上記実施の形態では、３本設けた構成としたが、１本でもよく、また、２本以上何本設けても良い。

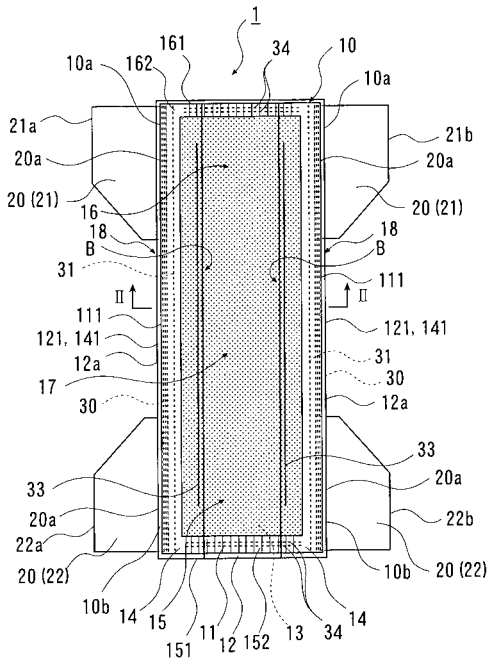
また、第１の糸状弾性部材３０は、バックシート１２の折り返し部１２ａに設ける構成としたが、バックシート１２のどちらかの面に直接固着する構成であってもよい。

さらに、第１の糸状弾性部材３０は、紙おむつ１０の長手方向全域に設けられていてもよいが、少なくとも股下部１７全域に設けられていればよい。

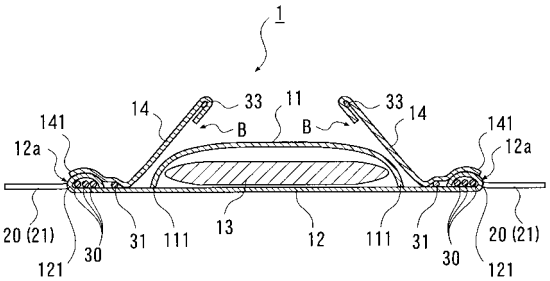
【００５５】
【発明の効果】
請求項１記載の発明によれば、腹側部及び背側部とサイドパネルとの固着部のうちの少なくとも一個所に、幅方向に外側固着部位と内側固着部位の少なくとも二つの固着部位が備えられ、外側固着部位は、取り外し可能とされ、内側固着部位と外側固着部位との間のサイドパネルは、折り返されていないので、着用者の胴周りサイズに応じて外側固着部位を取り外すことによって、サイドパネルの実際の長さを変えずに、胴周りサイズの許容範囲を広くすることができることとなって、使い勝手のよいものとすることができる。
【００５６】
請求項２記載の発明によれば、請求項１に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、固着部に設けられる固着部位が三箇所以上であり、固着部位の固着強度が幅方向外側のものほど弱くなっているので、固着部位を幅方向外側から内側に段階的に取り外すことが容易となる。
【００５７】
請求項３記載の発明によれば、請求項１又は２に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、バックシートの幅方向両端部に腹側部から股下部を通って背側部にかけて弾性部材が配設されているので、従来の吸収性物品のように、弾性部材よりも外側のフラップ部分が形成されない。従って、バックシートと弾性部材とで形成される脚周り部分や股間部分の端部がすっきりした形状になるので、下着のように見え、外観品質が向上する。
また、外側フラップ部が形成されないので、その部分の材料が少なくなることとなっって、材料コストを削減できる。
加えて、脚周り部分に外側フラップが形成されないので、装着しやすいものとなる。
【００５８】
請求項４記載の発明によれば、吸収体の両側部のそれぞれに沿って、腹側部から股下部を通って背側部に亘り設けられたギャザーシートの幅方向端部の位置が、バックシートの幅方向端部と同じかそれよりも内側なので、ギャザーシートが設けられるタイプの吸収性物品においても、請求項３記載の発明と同様の効果が得られる。
【００５９】
請求項５記載の発明によれば、請求項３又は４に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、弾性部材は、バックシートの幅方向両端部が折り返された折り返し部に、当該折り返し部のバックシートに挟まれた状態で配設されているので、弾性部材を確実にバックシートの幅方向両端部に配設することができる。
また、例えば、パンツ型の吸収性物品においては、装着時に折り返し部を把持部として使用することができることとなって、履きやすいものとなる。
【００６０】
請求項６記載の発明によれば、請求項３～５の何れか一項に記載の発明と同様の効果が得られることは無論のこと、特に、吸収体の側縁部と弾性部材との間に、第２の弾性部材が腹側部から股下部を通って背側部にかけて設けられているので、脚周り部からの漏れをさらに防止することができるとともに、脚周りのフィット性もさらに向上させることができる。
【図面の簡単な説明】
【図１】本実施の形態における使い捨て紙おむつを、トップシートを上面にして展開した平面展開図である。
【図２】図１のII－II部の断面図である。
【図３】図１の使い捨て紙おむつの装着時の状態に組立てた斜視図である。
【図４】図３における右側の固着部４０周辺の拡大図である。
【図５】従来の使い捨て紙おむつを、トップシートを上面にして展開した平面展開図である。
【図６】図５のVI－VI部の断面図である。

【図７】図５の使い捨て紙おむつの装着時の状態に組立てた斜視図である。
【符号の説明】
１　使い捨て紙おむつ（吸収性物品）
１０　紙おむつ本体（本体）
１１　トップシート
１２　バックシート
１２ａ　折り返し部
１３　吸収体
１４　ギャザーシート
１５　腹側部
１６　背側部
１７　股下部
２０　サイドパネル
３０　第１の糸状弾性部材（弾性部材）
３１　第２の糸状弾性部材（第２の弾性部材）
４０　固着部
４１　外側固着部位
４２　内側固着部位

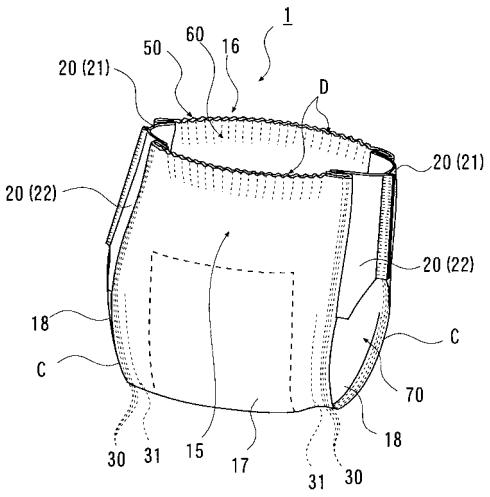
【図１】



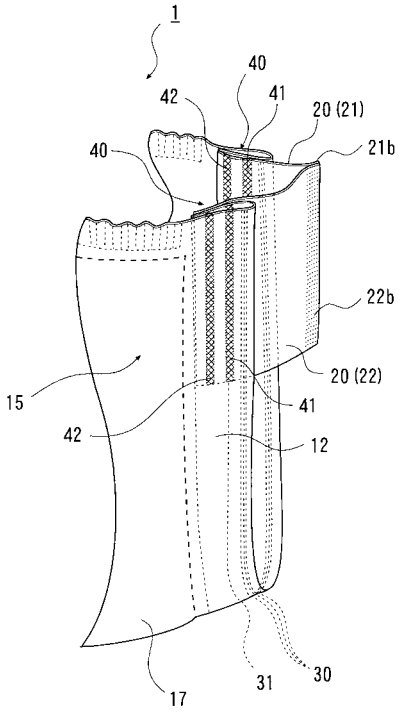
【図２】



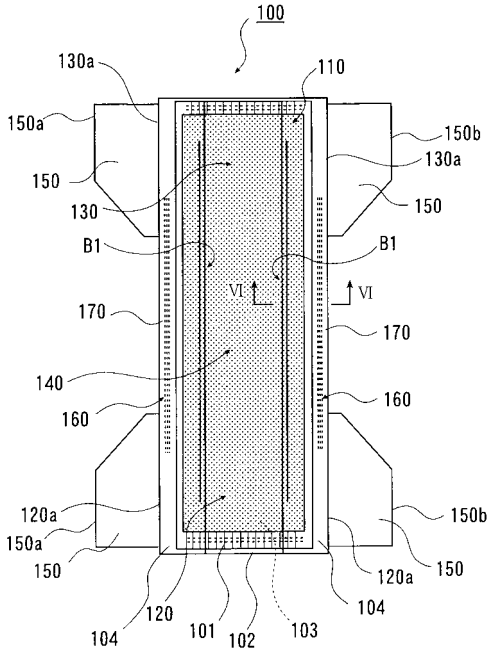
【図３】



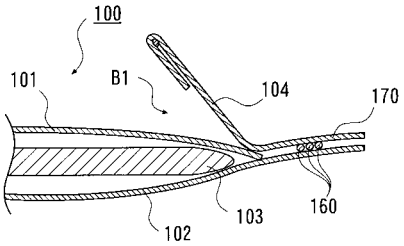
【図４】


1
40
42
41
20 (21)
21b
40
22b
20 (22)
15
41
42
12
30
31
17

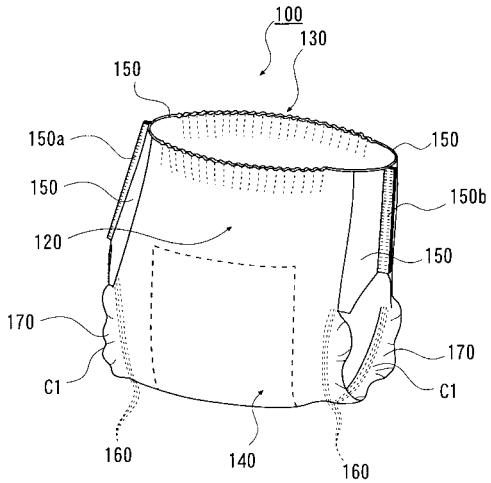
【図５】


100
130a
110
150a
150b
150
130a
130
150
B1
B1
VI
VI
170
170
140
160
160
120a
150b
150a
150
120a
150
104
120
101
102
103
104

【図６】


100
101
B1
104
170
160
103
102

【図７】


100
130
150
150a
150
150
150
150b
120
150
170
170
C1
C1
160
140
160

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０６－０３０９６２（ＪＰ，Ａ）
国際公開第０１／０８２８５２（WO，Ａ１）
特表平１０－５０９３６１（ＪＰ，Ａ）
特表平１１－５１３２９５（ＪＰ，Ａ）
特開昭５８－０６５００２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A61F 13/15-13/84